



▲大きい札を使用し、距離を取りながら仲良く楽しいかるた大会となりました。

元気に遊ぶ子ども達 放課後子ども教室「かるた 大会」開催

1月18日、朝日振興センターの放課後子ども教室で、A5サイズの「只見の自慢かるた」を使用した「かるた大会」が行われました。コロナウイルス感染対策として、事前には手指消毒を行い、マスクをしっかりと着用し、札読み中には距離を保ちながらの実施となりました。

子ども達は、通常よりも大きいサイズのかるたに戸惑いながらも、読み札が読まれると一生懸命に絵札を探し、「沢山とれて、楽しかった」と元気にかるた取りを楽しんでいました。

命の大切さを学ぶ 「めばえ教室」が開かれました

1月18日、町内3小学校5年生を対象に命の大切さを学ぶ「めばえ教室」が開かれました。講師には助産師の樋口みのりさんが招かれました。

授業では、生まれる前の赤ちゃんの成長を人形で体感したり、心音を聞いたりしました。樋口さんが「1つの命が生まれてくる確立は、宝くじの1等が100万回あたる確立と同じなんです。」と話す、児童達から驚きの声が上がりました。

自分が生まれてきたことの大切さ、命の素晴らしさを学ぶ教室となりました。



▲明和小学校では、実際の赤ちゃんに近い人形を抱っこして、重さや大きさを体感しました



▲朝日小学校は、リモートでの参加となりましたが、手を挙げて意見を発表する姿も見られました。



▲只見小学校は、18日の授業を録画したのを見ながら、命の大切さを考えました。

ご存知ですか？

PCR検査と抗原検査と抗体検査の違いについて

全国的に新型コロナウイルスの検査実施数が増えており、「PCR検査」、「抗原検査」、「抗体検査」の3種類を良く耳にするようになりました。

ここでは、その3種類の検査について、改めて整理したいと思います

PCR検査とは

主に検査時点で体内にウイルスが存在するかを調べるときに用います。鼻や咽頭を拭うか唾液採取により細胞を採取し、検査を行います。発症する数日前より検出可能と言われています。検査したいウイルスだけにある遺伝子配列を増幅させ検出させる検査のため、誤って「陽性」と出る可能性が低いです。

ですが、感度(※)は約70%程度と言われており、感染していたとしても、検体採取をした場所にウイルスが存在しなかったなどの理由から陰性と診断されるケースもあります。

そのため、1度目の検査では陰性(検出せず)だとしても、喉の痛み・咳などが続くために再検査したら陽性だった、というようなケースもあります。

PCR検査が陰性だとしても、今後感染しないことの保証にはなりません。

※感度とは…本当に感染している人の中で、どのくらい感染の把握が出来るかというものです。100人の感染者に対して検査結果が陽性100人であれば感度は100%ということになります。

抗原検査とは

主に検査時点で体内にウイルスが存在するかを調べるときに用います。鼻腔咽頭を拭って細胞を採取し、検査を行います。検査したいウイルスが持つ特有のたんぱく質(抗原)を検出する検査方法です。

一般病院等で簡易に行われている検査は、定性検査と呼ばれるものです。この定性検査は多くのウイルスが必要となるため、新型コロナウイルスに感染していたとしても、ウイルス量が少ない場合は陰性となってしまいます。

少ない時間で結果が出るという利点がありますが、偽陰性の可能性がPCR検査よりも高いため、症状が続く場合には再度PCR検査を受けることがあります。

抗原検査が陰性だとしても、今後感染しないことの保証にはなりません。

抗体検査とは

主に過去にウイルスに感染したことがあるかを調べるときに用います。血液を採取し、ウイルスに感染すると形成されるたんぱく質(抗体)が血液中に存在するかを調べます。陽性となった時には、自覚症状がなかった場合も含めて過去に感染したことがあるということです。体内で抗体が出来るまでは時間がかかることから現在感染しているかを判断するには難しく、症状がある場合には、抗体検査よりもPCR検査等が有効です。

また、抗体があるから再感染しないというにはデータが少ないことなどから、現時点では抗体検査の結果が陽性だとしても**再感染しないとは言いきれません。**

検査の結果、感染していないとしても、手洗いやうがい、マスクの着用を心がけましょう。